パワーセービング機能について

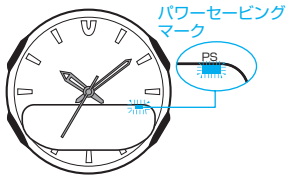
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  暗いところで本機を３～４日間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで４日間経過します。
  ➡アラーム・時報の報音は行ないません。
  アナログ針は運針を停止し、自動受信も行ないません。

※時計機能は正常に作動しています。



●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大２秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON／OFF

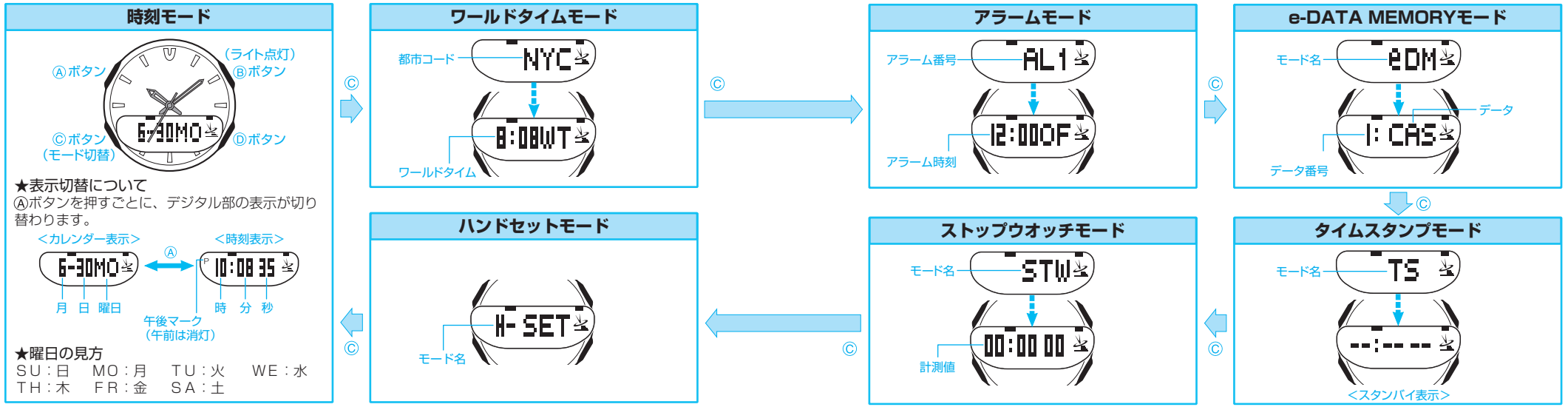
パワーセービング機能を働かせなくするには「■セットのしかた」からの操作をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

> 机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

操作のしくみと表示の見方

Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。

※アラームモード（タイマー付きアラーム表示は除く）、e-DATA MEMORYモード、ハンドセットモードのまま２～３分すると、自動的に時刻モードに戻ります。



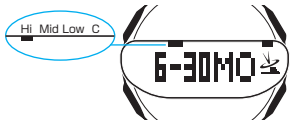
電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

ご注意

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル4)、メモリーされているデータや設定データは消去されます。

■ バッテリーインジケーターの見方



レベル1	Hi Mid Low C	通常動作可能
レベル2	Hi Mid Low C	通常動作可能
レベル3	Hi Mid Low C	電波受信不可、アラーム・時報などの報音不可、ライト点灯不可、液晶表示不可
レベル4	Hi Mid Low C	時計発振不可（時計機能停止）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル３では、アラーム・時報がONでも報音しません。電波受信も行ないません。
※レベル2にまで充電が回復すれば、電波受信を開始します。
※レベル４になっても、充電を開始すると再び使えるようになりますが、表示回復後に時刻・カレンダーを合わせてください。

●充電必要サイン

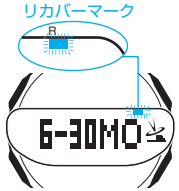
レベル3状態でインジケーターが点滅しているとき(CHARGE状態)は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●リカバーマークが点灯している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点灯して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 運針
- 電波受信

このような場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



■ 充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

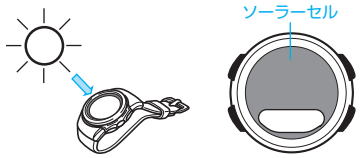
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

〈1日あたりの回復充電時間〉

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約5分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約24分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

本機は一度フル充電すると、充電しなくても下記の条件で使用した場合に約5ヶ月動き続けます。

1日あたりの使用量
- ライト：約 1.5 秒間
- アラーム報音：約10秒間
- 電波受信：5 回

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

- 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル4 ➡ レベル3 ➡ レベル2 ➡ レベル1		
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約1時間	約13時間	約4時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約3時間	約66時間	約18時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約5時間	― ― ―	― ― ―
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約45時間	― ― ―	― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

ライト点灯について

本機にはLEDライトがついており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる ～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

Ⓑ ボタンを押します

➡ Ⓑ ボタンを押すと約 1.5 秒間文字板が発光します。



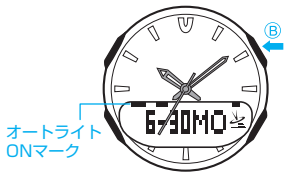
※オートライトOFFのときもⒷボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる ～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。
※明るいときは、自動発光しません。
暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約 1.5 秒間発光します。

準備：時刻モードのときⒷボタンを約２秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、Ⓑボタンを約２秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●文字板を発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。
※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈ご注意〉
- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に操作確認音の鳴るボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。

〈オートライトご使用時の注意〉
- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約 1.5 秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

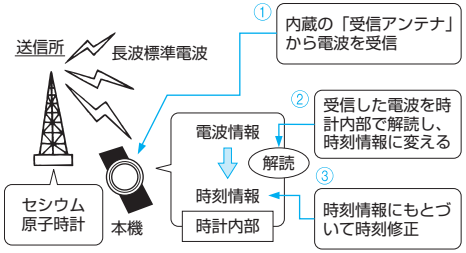
※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人通信総合研究所（CRL）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

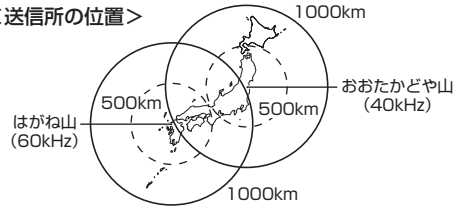
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます。（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）

＊ ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

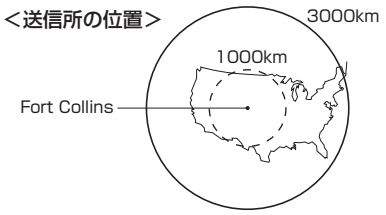
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

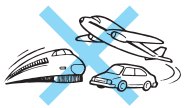
■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

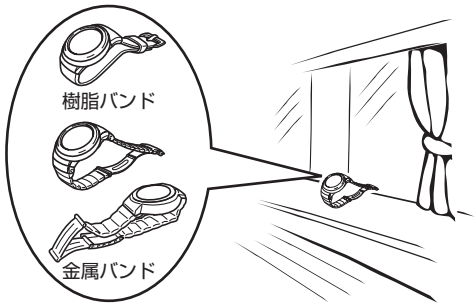
受信方法には、以下の２種類があります。
1 自動受信（午前12・1・2・3・4時に自動受信します）
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※自動受信が一度も成功しなかった場合のみ午前5時に受信を行ないます。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ２～６分です。

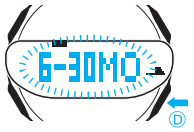
※ただし、受信電波の設定で「AT（自動選局）」を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大12分かかる場合があります。

＊ 受信電波の設定については「■受信電波を選ぶ」参照。

●手動受信

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けます



➡確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は表示が点滅して、受信マーク“”が変化します。

★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

※受信マーク“”が点灯します。

※秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

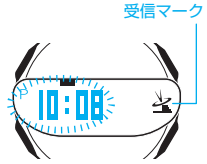
★受信が失敗すると

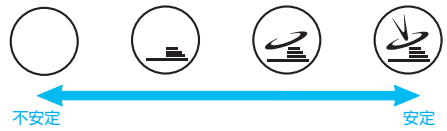
時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※何も操作をしないと、１～２分後時刻モードに戻ります。

●受信マーク

受信中は受信状態によって受信マークが変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

●受信マークは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信中のアナログ部（針）について

秒針・・・・・・受信開始とともに12時位置まで移動して止まります。
※受信終了後、運針を再開します。
※ボタンを押して受信を中止したときは、デジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

時・分針・・・通常通り運針します。

受信中は秒針が動きませんのでご注意ください。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。
※月日と時分は２秒ごとに切り替わって表示されます。
※時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓボタンを押します。
※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



■受信電波を選ぶ

ホームタイム都市をTYO（東京）に設定しているときは、受信する電波を選ぶことができます。

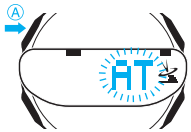
＊ ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

※工場出荷時には、「ホームタイム都市＝TYO（東京）、受信電波＝AT（自動選局）」でセットされています。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約2秒間押します



➡受信電波の設定になります。
※ 秒針が12時位置まで移動して止まります。

2. 受信する電波を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押して、受信する電波を選びます。



● AT 「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
●40 JPN 「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」からの電波のみ受信します。
●60 JPN 「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のみ受信します。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

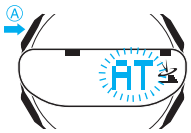
➡点滅が止まり、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■自動受信のON／OFF設定

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します



➡受信電波の設定になります。
※ 秒針が12時位置まで移動して止まります。

2. 「自動受信切替」にする

Ⓒ ボタンを３回押します



➡“On”または“OF”が点滅します。

3. ON／OFFを切り替える

Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓボタンを押すごとに自動受信のON／OFFが切り替わります。

● On 自動受信はONになります。
● OF 自動受信はOFFになります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。
●電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ針部が修正されます。
アナログ針部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ針部の時刻を合わせてください。
●受信中は、アナログ秒針部は動きませんので、時刻がずれていることがあります。
●自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
●電波受信を行なわないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。
●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

手動受信ができない

原因：・時刻モード以外のときは、手動受信はできません。
・ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAX以外のときは、手動受信はできません。

処置：・手動受信は時刻モードで行なってください。
・ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAXのとき、手動受信を行なうことができます。「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」からの設定をご覧になり、ホームタイム都市を合わせてください。

「自動受信ON」に設定しているのに“”マークが消えている

原因：・“”マークは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。
・一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません（毎日午前３時に消えます）。
・自動受信のとき、時刻モードまたはワールドタイムモード以外のモードになっていた。

処置：・電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。
・「受信成功」しやすい環境で使用してください。
・自動受信を行なうときは、時刻モードまたはワールドタイムモードにしておいてください。
・手動で時刻修正をすると、“”マークは消えます。

電波受信をしても時刻が合わない

原因：・サマータイムがONになっているか、ホームタイム都市設定を間違えていませんか。

処置：・1時間進んでいるとき（DSTマーク点灯）はサマータイムがONになっています。また、大きく違っているときはホームタイム都市を間違えています。「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」からの設定をご覧になり、正しく合わせてください。

●電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

受信電波	AT	日本の標準電波（40kHz/60kHz）を自動選局
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	A	電波受信による自動切替
自動受信	ON R/C	自動受信ON

ワールドタイムの使い方

Ⓒ ボタンを押して、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。

ご注意

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

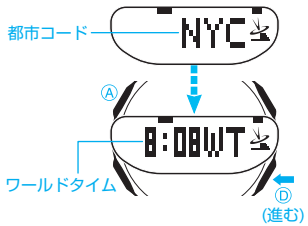
* セットについては「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに都市コードが進みます。都市コードを表示後、その都市の時刻を表示します。
※押し続けると早送りします。



※Ⓐ ボタンを押すと、都市コードを約２秒間表示します。

■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約２秒間押します



➡Ⓐボタンを約2秒間押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。
※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、"GMT"とホームタイムで設定している都市を表示しているときはサマータイムの設定はできません。

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
----	-11		JRS	+2	エルサレム
HNL	-10	ホノルル	JED	+3	ジェッダ
ANC	-9	アンカレジ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	-8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	-7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
CHI	-6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
NYC	-5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	-4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
RIO	-3	リオデジャネイロ	RGN	+6.5	ヤンゴン
----	-2		BKK	+7	バンコク
----	-1		HKG	+8	香港
GMT	+0	<グリニッジ標準時>	SEL	+9	ソウル
LON	+0	ロンドン	TYO	+9	東京
PAR	+1	パリ	ADL	+9.5	アデレード
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
CAI	+2	カイロ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2002年12月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時（UTC）を基準としたものです。

タイムスタンプ機能の使い方

Ⓒ ボタンを押して、タイムスタンプモードにします。

タイムスタンプモードでは、時刻データ（月日・時分秒）を最大10件まで記憶できます。時刻データは記憶した順に見ることができますので、月日と時刻を覚えておくときに大変便利です。

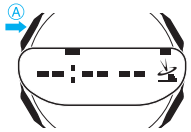
※タイムスタンプモードに切り替えると、スタンバイ表示になります。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、タイムスタンプモードの時刻も24時間制で表示されます。

■表示切替について

タイムスタンプモードのとき

Ⓐ ボタンを押します

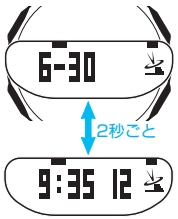
<スタンバイ表示>



➡Ⓐ ボタンを押すごとに、スタンバイ表示とリコール表示が切り替わります。

※リコール表示では、データ番号を表示後、月日と時分秒は2秒ごとに切り替わって表示されます。
※時刻データを1件も記憶していないときはリコール表示に切り替わりません。

<リコール表示>

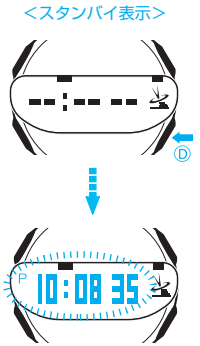


■時刻データを記憶させる

スタンバイ表示のとき

Ⓓ ボタンを押します

<スタンバイ表示>



➡表示が点滅して、Ⓓ ボタンを押したときの時刻データ（月日・時分秒）を記憶します。
※ 表示点滅後、スタンバイ表示に戻ります。
※ 最大10件まで記憶できます。

★データ自動入れ替え

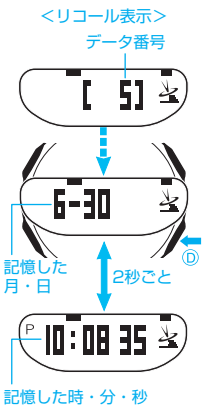
記憶件数が10件を超えると、一番古いデータ（データ1）が消去され、以後、順番に番号が繰り上がって最新データが記憶されます。

■時刻データを見る

リコール表示のとき

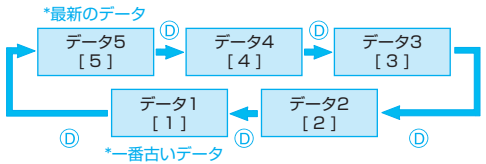
Ⓓ ボタンを押します

<リコール表示>



➡Ⓓ ボタンを押すごとに表示が切り替わります。
※ 押し続けると早送りします。
※ データ番号を表示後、月日と時分秒は2秒ごとに切り替わって表示されます。
※ リコール表示に切り替えると、前回このモードで最後に見たデータを表示します。ただし、時刻データを記憶させた直後は最新のデータを表示します。

例）時刻データを5件記憶したとき



■時刻データを消去する

リコール表示のとき

Ⓐ ボタンとⒹ ボタンを同時に押します



➡"CLR"点滅後、記憶したすべての時刻データが消去されます。
※ 時刻データ消去後、スタンバイ表示に戻ります。
※ 特定の時刻データのみ消去することはできません。

CASIO

e-DATA MEMORY機能の使い方

Ⓒボタンを押して、e-DATA MEMORYモードにします。

e-DATA MEMORYモードでは、メールアドレスやホームページアドレスなどのデータを記憶できます。
※1件あたりのデータ内容により、記憶できる総件数が変わります。

- 1件あたり63文字のデータを入力した場合、5件まで記憶できます。（1件あたり64文字以上のデータは入力できません）
- 1件あたり7文字のデータを入力した場合、40件まで記憶できます。（1件あたり6文字以下のデータでも記憶できる総件数は40件までとなります）

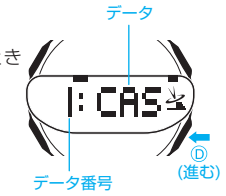
※e-DATA MEMORYモードに切り替えると、前回このモードで最後に見たデータを表示します。

■データを見る

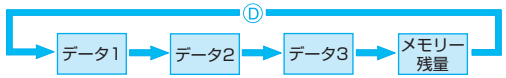
1. 見たいページを選ぶ
e-DATA MEMORYモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとにページが切り替わります。
※ 押し続けると早送りします。
※ データ入力をしたページとメモリー残量を表示します。なお、データを1件も入力していないときは、メモリー残量のみ表示します。



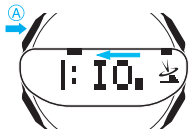
例）データを3件入力したとき



2. データを見る

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐ ボタンを押すと右から左へ文字が横に流れ、3文字ずつデータを表示します。
※ データの最後に"<"マークがつきます。
※ データが2文字以下のときは、Ⓐ ボタンを押しても文字は横に流れません。

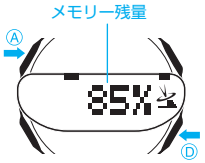


■データを入力する

1. メモリー残量を表示させる
e-DATA MEMORYモードのとき

Ⓐ ボタンとⒹ ボタンを同時に押します

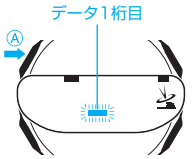
➡メモリー残量を表示します。
※"0%"と表示されるときは、すでにメモリーいっぱいのデータが記憶されています。これ以上記憶できませんので、不要なデータを消しておいてください（「■データの修正／消去」参照）。



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

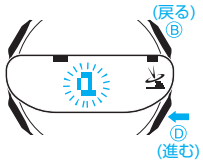
➡データの1桁目が点滅します。



3. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の文字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

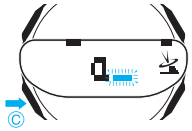


★入力できる文字について
英小文字　a～z
記号　＊—_@ ˜ ／？＃！%.：'，＆＝÷×－＋
英大文字　A～Z
数字　0～9

4. 桁を移動させる

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すと点滅箇所が右に1つ移動します。



Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して文字を入力する操作を繰り返してデータを入力します。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡"SET"点滅後、点滅が止まり、セット完了です。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。
※ 続けて他のデータを入力したいときは、1～5の操作を繰り返し行ないます。
※ データは入力した順に記憶していきます。

■データの修正／消去

1. Ⓓボタンを押して修正／消去したいデータを選びます

2. Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡データの1桁目が点滅します。

3. データを修正／消去する

●データ修正➡ Ⓒ ボタンを押して修正したい箇所に点滅を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して正しい文字を表示させます。
●データ消去➡ Ⓓ ボタンと Ⓑ ボタンを同時に押します。"CLR"点滅後、データが消去されます。
※データ消去後、引き続き他のデータを入力することができます。
※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

4. 修正／消去が終わりましたら、Ⓐ ボタンを押して点滅を止めます

※データを消去すると、後ろのページが1ページずつ繰り上がります。

ストップウオッチの使い方

Ⓒボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

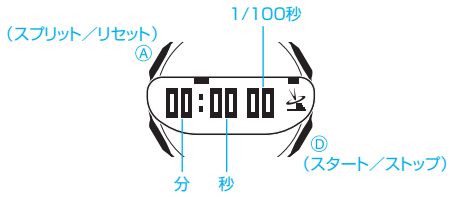
ストップウオッチは1/100秒単位で99分59秒99（100分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

●1・2着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

●計測中にⒶボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
●計測終了後Ⓐ ボタンを押すと、測定値が0に戻ります（リセット）。

アラーム・時報の使い方

Ⓒ ボタンを押して、アラームモードにします。

■ アラームの使い方

●アラームの種類

本機には、５本のアラームがあり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。
（通常アラーム３本／タイマー付きアラーム１本／スヌーズアラーム１本）

●通常アラーム（AL1 ～ AL3） セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴ります。
●タイマー付きアラーム（TAL） セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴ります。 ※セットした時刻までの残り時間を表示します。
●スヌーズアラーム（SNZ） セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴り、5分おきに合計７回報音を繰り返します。なお、ボタンを押して音を止めても、再び鳴り出します。

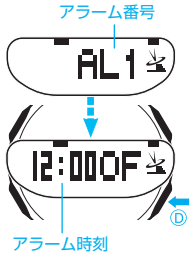
●アラーム時刻や残り時間を見る

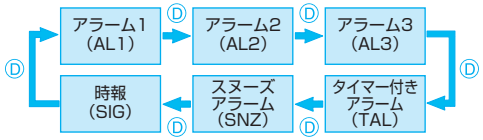
アラームモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。

※ アラーム番号を表示後、アラーム時刻を表示します。





★残り時間表示について

タイマー付きアラーム（TAL）では、アラームをONにすると、アラーム時刻を表示後、セットした時刻までの残り時間を表示します。



●アラームのセット

1. セットしたいアラームを選ぶ

アラームモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押して、セットしたいアラームを選びます。

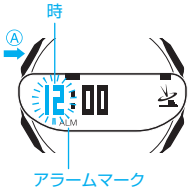


2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡「時」が点滅します。

※セット状態にすると、自動的にアラームがONになります。

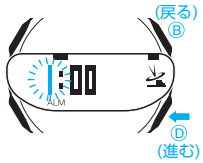


3. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。



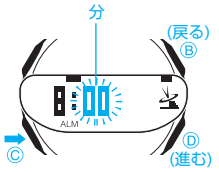
※「時」のセットのとき午前／午後（P）または24時間制（24）にご注意ください。

※ ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、アラーム時刻も24時間制で表示されます。

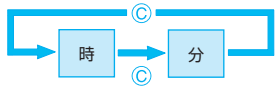
4. 「分」をセットする

Ⓒ ボタンを押します

➡「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様にⒹまたはⒷボタンでセットします。



※ Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。



5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

●アラームのON／OFF設定

準備：アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、設定したいアラームを選びます。

Ⓐ ボタンを押します

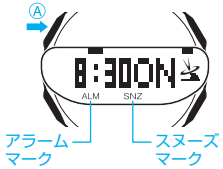
➡Ⓐ ボタンを押すごとにアラームのON／OFFが切り替わります。

※ アラームをONにすると、アラームマーク“ALM”が点灯します。なお、スヌーズアラームのときはスヌーズマーク“SNZ”も点灯します。

<アラーム1表示>



<スヌーズアラーム表示>



●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラームのときは、再び鳴り出します（スヌーズアラーム機能中はスヌーズマークが点滅します）。

※「●アラームのON／OFF設定」の手順でアラームマークとスヌーズマークを消すと、スヌーズアラーム機能が解除され、以後音は鳴りません。

▮ご注意▮

スヌーズマーク点滅中に以下の操作を行なうと、点滅が止まり、次回報音を中断します。

- 時刻モードでセット状態に入る。
- アラームモード（スヌーズアラーム）でセット状態に入る。

●モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

■ 時報の使い方

●時報について

毎正時（00分）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

●時報のON／OFF設定

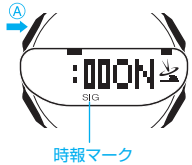
準備：アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、時報表示（SIG）を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐ ボタンを押すごとに時報のON／OFFが切り替わります。

※ 時報をONにすると、時報マーク“SIG”が点灯します。

<時報表示>



ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。

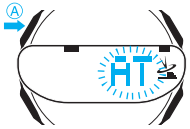
デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

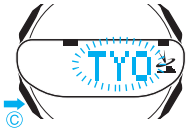


➡受信電波の設定になります。
＊ 受信電波の設定については「■受信電波を選ぶ」参照。

※ 秒針が 12 時位置まで移動して止まります。

2. 「ホームタイム都市設定」にする

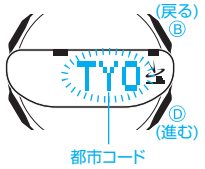
Ⓒボタンを押します



➡「都市コード」が点滅します。

3. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

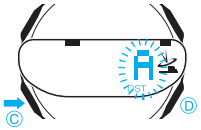


➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。
＊ 都市コード一覧については「■都市コード一覧」参照。

4. 「サマータイム切替」にする

Ⓒ ボタンを押します



➡サマータイムの切り替えになります。

＊ サマータイムについては「■サマータイム（DST）について」参照。

5. ON／OFF を切り替える

Ⓓ ボタンを押します

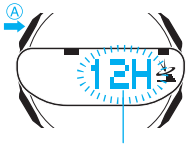
➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの ON／OFF が切り替わります。

●OF(OFF) サマータイムは OFF になります（通常時間）。
●ON サマータイムは ON になります（夏時間）。 ※セット完了後、DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。
●A（AUTO） 電波受信により、自動的にサマータイムの ON／OFF が切り替わります。 ※ホームタイム都市が TYO のときは日本のサマータイム情報に、NYC、CHI、DEN、LAX のときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。 ＊ アメリカのサマータイム期間＝４月の第１週目曜日の AM2:00 ～ 10 月の最終日曜日の AM1:00

※ホームタイム都市がHKG、TYO、SEL、NYC、CHI、DEN、LAX、ANC、HNL以外のときは、「OFF」⇔「ON」で表示が切り替わります。

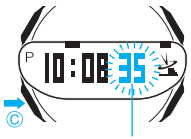
6. 「時刻・カレンダー」合わせ

a. **Ⓐ ボタンを押します**

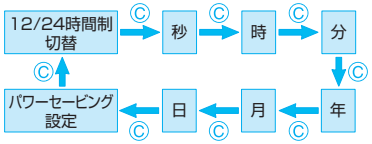


➡「12/24時間制切替」になります。

b. **Ⓒ ボタンを押します**



➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。



c. **Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

★「12/24 時間制切替」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに 12 時間制表示“12H”と 24 時間制表示“24H”が切り替わります。



★「秒」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押すと「00 秒」からスタートします。

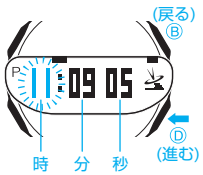
※秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは 1 分繰り上がって「00 秒」になります。(時報は「時報サービス 117 番」が便利です)



★「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…

Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、 Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

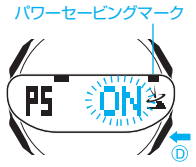
※Ⓓ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りします。



★「パワーセービング設定」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。

※パワーセービング機能を ON にすると、パワーセービングマークが点灯します。



Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または 24 時間制（24）にご注意ください。

※「年」は2000～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

<シンクロ機能>

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ針部の針も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り（正転方向）または戻し（逆転方向）されます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

※時・分針を修正後、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

■アナログ部（針）の修正

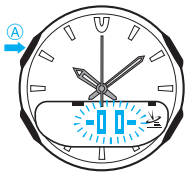
アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

準備：Ⓒ ボタンを押して、ハンドセットモードにします。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

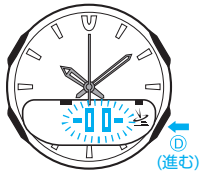
Ⓐ ボタンを約２秒間押します



➡秒針が12時位置まで移動して止まり、“- 00 -”が点滅します。

2. 秒針の 12 時位置合わせ

秒針が 12 時位置に合わない場合は、Ⓓボタンを押して合わせます



➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ進みます。

※ 押し続けると早送りします。

3. 時・分針の修正に切り替える

Ⓒ ボタンを押します

➡「時・分」が点滅します。

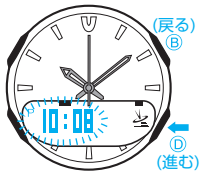


4. 時・分針を合わせる

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分（20 秒）ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので、デジタル部の「時・分」丁度に時分針を合わせます。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。



＜針の自動早送り＞

- Ⓓ ボタンを押し続けて早送り中に Ⓑ ボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。
- Ⓑ ボタンを押し続けて早送り中に Ⓓ ボタンを押すと、ボタンを離しても針が戻り続けます。
- 自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※ セットを終わると、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

※ 点滅表示のまま 2～3 分間すると、自動的に点滅が止まります。